



竹久夢二

待てど暮らせどこ人を
宵待草のやるせな
今宵は月も出ぬそつか

K'mio talks

合わせる、という事は「聴く」ということ

今月は合宿があります。合宿というのはそうしょっちゅうできるわけではないので、合宿でやるべき事を考えましょう。

合唱の目的は、皆の声を合わせるという事です。声の高さ、つまり音程、声の大きさ、声の質、などを合わせる。普段二時間の練習では正直、合って来た頃に終了、という事になってしまいます。しかし合宿でのメリットは何せ、長い時間練習ができる。そこで、合宿の練習に入った当初から、「合わせる」ということを念頭に置いて声を出してください。

合わせる、という事は違う言い方をすると、「聴く」ということです。自分の声をただ張り上げるだけでは合わせることはできませんので、「聴く」という作業を常に心がけて、合宿の間に、どれくらい合わせる事ができるか、「挑戦」して欲しいと思います。
(Noboru Kamio)

佐々木 団長の 断腸の思い

ちょっと真面目な和音の話

合唱の本質は、何と言ってもハーモニー。ハーモニーは和音の進行で成り立ち、和音はピッチの異なる二つ以上の演奏音の組み合わせ。和音は協和音と不協和音に分かれ、名曲はこのバランスが良いのだそうです。和音の基本は三和音で、ドを基準にすれば、ドミソが長三和音、ドミソが短三和音で安定した心地良い響きになります。周波数比で表すとドが1/1、ミが5/4、ソが3/2、シが6/5と単純な整数比になっています。注意が必要なのが、我々が親しんでいるピアノは平均律といって転調に対応するため単純な比から周波数がずれているため厳密には和音の響きが濁っています。しかし無伴奏のアカペラでは正確な周波数の純正律で歌うことが可能なため、この世とは思えないような美しい響きを生み出すことが可能になります。
(佐々木 晋)

編集後記 2012.7.19

私事だが、月2回のペースで実家を訪ねる。年老いてから病気や怪我のオンパレードの母を介護する大正生まれの父。今や家事全般を黙々とこなすようになった。口が悪く、気難しいのだが、行く度にカレーや煮物を作ってくれ、娘としてはただ、感謝！そんな折、ひばり作品集の「柔」を歌ってみて懐かしいのと同時にとても爽やかな気持ちになった。時代を越えて歌い継がれる名曲が元気をくれたようだ。皆で歌いまわす「こぶし」が妙に楽しい！

先月号のまど・みちお氏についての記事に間違いがありました（HP掲載分を除く）。まずお名前の中黒抜け。詩の題名は、正しくは「カ」蚊「けしゴム」つけもののおもしろ。お詫びして訂正いたします。（三葉）

またまた若い人が入団。6月の「聖マーガレット教会チャリティーコンサート」を聴きに来て興味を持ったと言うアルトの小林有紀子さん、柏フィルに在籍していた、テナーの若林良さん。なぜたくさんの合唱団の中から「ショコラ」を選んでくださったのだろう。お訊ねしたい気もするがちょっとお答えが怖いような…。なにとはともあれ団に活気をもたらしてくれることは確か。有り難いことだ。（Kobo）



わたしの先生



テナー 中村 崇

お客様が仕事の「先生」

サラリーマンになって40年を迎えようとしています。そのうち10年が管理部門、残りが営業でした。初めての営業は当時これから花が咲きそうな電子・半導体業界です。事務屋の私には何の事だか、右も左も……。商社でしたので、まず仕入先に行こうと決め、人間関係作りからです。これは当然自社製品を売りたいから熱心に教えてくれました。ある程度してお客様を持つことになり今度は買ってもらう方だから大変です。人間関係ができるうちにどうでしょう……。その商品の使われ方、競合他社のこと、業界のことなど沢山のことを教えて頂きました。

サラリーマンには教科書はないとよく言われますが、まさにその通りのことをやってきました。

私にとって仕事の「先生」はお客様だったのです。言うまでもありませんがその先生と生徒の関係は、今でも続き、時おり一献を傾けながら往時を懐かしんでいます。



去る6月24日、東日本大震災被災者支援「聖マーガレット教会チャリティーコンサート」が行われ《混声合唱団 ショコラ》は《コーロ・つるさし》《Colla Voce》《丸の内合唱団》とともに参加しました。二人のメンバーに感想を寄せていただきました。

小心者の“初めて物語”

テナー 山田 武雄

直前の練習で中鉢先生からテナーパートが何度も注意されました。あれはほとんど私に原因があります！自信の無い小心者は、会場に向かう電車の中で『音はずしてはいけない。迷惑をかけるはいけない。』ということばかり考えていました。口パクにするのか？それでは参加しているという実感も喜びもないままに終わってしまうぞ。...どこまでも気弱になっていきます。しかし教会でのリハーサルで心が決まりました。『歌える！歌おう！』そう思わせてくれたのは神尾先生の指揮でした。今まで練習してきたものを、先生は全～部引き出してくれるような安心を感じたのです。かくて本番。先生の指揮の魔力に引き込まれるように、迷うことなく清々しい気分で歌っている自分が不思議でした。嬉しかったです！新しい自分を発見したような初参加のコンサートでした。

ア・カペラでハモル楽しみ

ソプラノ 柴田 晶子

今まで何度か教会で宗教曲や中世のポリフォニーを歌ってきましたが、演歌を歌ったのは初めてでした。まず1曲目。ソプラノにとっては過酷な、いきなり高音でしかも“P”から入る“おながく”でした。緊張しましたが会場の響きに助けられ何とかスムーズに歌い始められました。私はア・カペラでハモルことが大好きで、3曲歌えたことに満足です。まだまだ練習不足だと思いますが、本番までに更なるハーモニーの向上を目指したいものです。最後の“聞こえる”。暗譜で歌える素晴らしさを実感しました。細かなミスや、ラララ、とルルルが入り混じった声が聞こえたりはしましたが、そんなことは微々たること、指揮者と団員が一つになり心が通い合い、聴衆とも共鳴できた瞬間でした。どんぐりコンサートにも来てくださった方が、やはり暗譜で歌った今回の方がずっと素晴らしかったと感想を述べてくれました。本番まで3ヶ月足らず。集中して頑張りましょう！！

《ショコラ》夏季合宿

場所：BumB 東京スポーツ文化会館 江東区夢の島 2-1-3

有楽町線、JR京葉線、りんかい線「新木場」駅

7月28日（土）10:00 集合 ミュージックスタジオ A

18:30～懇親会

7月29日（日）9:30 集合 13:00 解散（予定）



